

第46回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール 最優秀賞・岐阜県知事賞 作品

最優秀賞・
岐阜県知事賞

1年自由図書部門／読んだ本・くまのこうちようせんせい

ぼくがびょうきになってわかったこと

岐阜市立則武小学校 岩垣重晴

このほんをおじいちゃんからもらって、さいしょによんだときはなかなかつたけれど、いまのぼくはよんだらないてしまう。

くまのこうちようせんせいがひつじくんにはなしたことばで、ぼくがいつもないてしまうところがあります。それは、「せんせいね、びょうきになってわかったことがあるんだよ。おおきなこえをだそうとおもっても、だせないときがあるんだね。できなくなつて、はじめてわかったんだ。ひつじくん、おおきなこえをだそうねって、いっぱいいって、ほんとうにわかるかっただね。」というところです。なぜいつもぼくがないてしまうのかというと、ぼくもびょうきをもっているからです。

ぼくはたくさんにゆういんして、けんさをしたり、しゅじゅつをしたりして、いたくてつらくてかなしいおもいをたくさんしています。

ぼくもびょうきになってはじめてわかったことがあります。それは、まずびょうきになってできないことがあるんだなということです。たべられないときがあること、ねころんでいないといったときもあります。また、ほこうきをつかわないとあるけないときや、かいだんをのぼることができなくなるときがあります。いちばんおもったことは、いっぱいのひとがぼくのことをたすけてくれるということです。リハビリのせんせいは、いつもぼくができることをすこしずついっしょにちようせんして

くれたりします。かんごしさんは、だいじょうぶといってくれます。みんなぼくをたくさんほめてくれます。

みんなはぼくのおはなしをきいてどうおもいましたか？びょうきのひとのきもちを、すこしずつわかってくれるとうれしいです。だれかにことばをつたえるときは、あいてのきもちをかんがえることがたいせつだと、ぼくはおもいます。